



なでなでねこちゃんDX2

スペック
 ●サイズ W430×T140×D110 ●重量 200g
 ●電源 単4アルカリ乾電池2本(連続6時間) ●希望小売価格 5,980円(税別)
 ●商品紹介URL <http://trendmaster.co.jp/dx2/>



なでなでワンちゃん

スペック
 ●サイズ W330×T140×D220 ●重量 230g
 ●電源 単4アルカリ乾電池2本(連続8時間) ●希望小売価格 6,980円(税別)
 ●商品紹介URL <http://trendmaster.co.jp/dog/>

「人と人を結ぶコミュニケーション性のある商品を作りたい」と考えた中田社長は最初は企画自体を大手玩具メーカーなどに売り込んだと言いますが、震災後の需要の冷え込みなどもあってなかなか色よい返事がもらえなかった。そんなとき自宅で飼っている猫に癒やされ励まされた経緯から「自宅で猫を飼えない人たちに向け、猫の代わりになるロボットを作ったら自分と同じように癒やされたり励まされたりするのはないか」と考え初代「なでなでねこちゃん」が2012年に完成した。

漫画のキャラクターのような擬人化された初代に続き、2代目は本物の猫のようなカタチとなった。現在販売されている3代目の「なでなでねこちゃんDX2」(以下DX2)は形状は2代目と同様だが、電池の消耗を防ぐためのスリープ機能など細かい機能の向上がなされている。

DX2は子猫サイズのぬいぐるみ型ロボットだ。「触ると、鳴く」という機能にあえて特化することで一般的なぬいぐるみに近い触り心地や重さに仕上げられている。頭や背中をなでると気持ちよさそうに鳴き、アゴの下をなでるとゴロゴロと音を鳴らす。しっぽを執拗に触ると嫌そうな声で鳴くが、何度も触るとあきらめた声で応答するといった反応を返してくる。毛色はトラ、三毛、アメシヨの3タイプ。愛らしい表情やポーズにもこだわりを持って作られている。

声は中田社長が飼っている猫の声をサンプリングしたものだという。分かりやすい声を録音するためかなりの声を録音してその中からピクアップしたものを利用している。実際に膝に乗せて頭や背中をなでみると毛の質感を感じられる触り心地も良く、反応が返ってくるのがこれほど心地よいものかと驚かされる。ロボットであることを理解していても思わず話しかけたくなるのが不思議である。

当初は玩具販売ルートで販売を開始したものの、その癒やしの効果はシルバー世代にも伸ばされたことから、介護用品に強い百貨店ルートでの売り上げが伸びている。また2016年7月からテレビ通販専用チャンネル、QVCでの取り扱いも開始され、多い時は一時間で1000体が売れるヒット商品となっている。その他カタログ通販や生協のチラシ、インターネット通販、福祉ルートなどで販売されており、5年間の累計で10万台を販売している。中田社長は「ヒット商品となるよりの息の長い商品として販売していきたい」と話している。

利用目的として特に注目されるのはシルバー世代への癒やし効果だ。2015年には同社のある川崎市において独自の基準に基づき福祉製品に認定する「かわさき基準」(KIS)の認証を受けた。帝京科学大学の生心理学研究室との共同研究により、猫好きの序に胃に対してアニメ

ルセラピーに近い効果があることが実証されている。

2017年には大好きなシルバー世代から根強い声のあった犬タイプのロボット「なでなでワンちゃん」も発売された。トイブドール、ミニチュアダックス、柴の3タイプで毛質や表情、しっぽの形状などがそれぞれ犬種の特徴そのままに再現されている。犬の声は中田社長の知り合いを中心に実際の犬の声をサンプリングして登録。犬の飼育経験のあるシルバー世代からも好評を博しており、現在猫と犬の売上比率は6対4ほどまで伸びているという。DX2の売り上げは落ちていないとしており、いかに犬タイプの需要が大きかったかと言ったことが分かる。

今年中には話しかけると気まぐれな言葉を返すインコタイプと、男児と女児の赤ちゃんタイプのロボットも発売予定であることから、今以上にラインナップが充実する。

「現在人と会話ができる完全なコミュニケーションロボットが目ざされ、我々の生活の中に入りつつあります。こうしたロボットは近い将来、一家に一台が当たり前になってくると考えていますが、そこまで高性能ではなくとも人の心に寄り添える「不完全」なロボットも必要とされていると考えます。高性能なロボットと人の間の中間的存在として、我々の作る製品が来たるべき将来のつなぎ役として機能していけたら幸いです」と中田社長は語る。



集中連載

ロボットが創出する
ギフト新世紀

人にながしかのサービスを提供する「サービスロボット」には様々な分野がある。自動的に掃除をする「清掃ロボット」や施設の場所などを案内してくれる「案内ロボット」などは目にする機会も増えている。

中でも人とのコミュニケーションに特化した「コミュニケーションロボット」と呼ばれるカテゴリーはAI(人工知能)を搭載し人と会話を交わす事ができるものから、一方通行ながら擬似的なコミュニケーションを図れるものまで様々な商品が登場している。

活躍の場に関しても、すでに様々な場面での活躍が見られるようになってきた。その中の一つとして「癒やし」がある。特にシルバー世代の孤独に寄り添うような商品は、大切だとは分かっているにもかかわらずフォローされてこなかった分野という事もあり、ロボットの進出がじわじわと進んでいる。

今月はそんな「癒やし」を感じられるロボットの中から、ペットタイプのロボットを手がけるトレンドマスター(株)を紹介する。

なでれば癒やされる「不完全」ゆえに
人のそばに優しく寄りそうロボット

なでなでねこちゃん
なでなでワンちゃん

トレンドマスター(株)



▲なでなでねこちゃんDX2と近日発売予定の商品を手にする中田社長

トレンドマスターが発売する「なでなでねこちゃん」は見た目はかわいらしい猫のぬいぐるみだ。スマートフォンパネルに活用されている静電センサーを頭やあご、背中としっぽの4カ所に配置し撫でると、触るの違いを感知し鳴き声を変える。詳しい話を同社代表取締役社長の中田敦氏に聞いた。

中田社長は大学卒業後、おもちゃメーカーのタカラ(現タカラトミー)に入社、キャラクターの版權管理や営業、関連会社のゼネラルマネージャーなどを経た後2011年に独立した。その年に起こった東日本大震災は会社の方向性を決定する契機ともなった。